

テーマ「国語の学習のこれから」

■入試問題の変化

2022年1月に実施された大学入試共通テストでこんな話が話題になりました。

「問題文が長い…」

「問題に行きつくまでに時間がかかって…」

「一問一答」的な問題を解く作業に徹しただけでは、どうしようもないということは、今始まったことではないのですが、それでも体感として問題文の長文化に対して対応をしなければならぬという思いが受験界隈では広がっているようです。

そこで矢面に立たされるのが国語です。文章を読む、だから国語だという短絡的な話なのですが、少々確認の必要があります。

■行間を読み取れる力

行間を読むとは勝手に想像して読むことではない！

国語の指導において、行間の取り扱いが議論されています。「国語の問題の答えは文章の中にあるからそれ以外は考えてはいけない」という指導もありますが、それだけそ忠実に守ってしまうと、長文化される問題から出題の意図は読み取れません。

書かれていることを根拠にしながら、行間を読み取れるようにすることがこれからの国語の学習には必要です。

■国語の学習で何ができるのか

読むことと書くことを学ぶのが国語の学習！

問題のリード文が長くなったことで、それを速く読めるようになるために国語の学習が必要だという見解があるとすれば、それは国語の学習の本質と大きくずれています。

国語の学習は筆者が伝えようとする内容を読み取ること、自分が伝えたいことを的確に表現することを中心とする教科です。

問題文の「速読」を養成する教科ではないのです。

■まとめ

文章をより深く、本質的に読めるようにする国語の学習

字面だけを追う文章の読みから、行間まで終える文章の読みが求められる入試への転換

小手先の「速読」ではなく、丹念な「熟読」に学習時間を割く必要性

「攻めの読み取り」の実践→知識を総動員した深い読み取り

■ただし国語の学習で育てられる力がある！

出題の意図を読み取る力は養うことはできる！

問題文が長くなるほど必要になる力は問題文を速く読む力ではありません。それよりも、必要な力は長い問題文を通して出題の意図を読み取る力です。

問題文が長くなるのは、それだけ思考の材料を提供しているということです。その材料から何を作り上げるべきかを問題文を通してわかることが解答への道筋になるのです。